

第2回 サンプルダムモニタリング部会 議事概要

日 時：平成30年3月12日（月）14:00～16:00

場 所：旭川地方合同庁舎 東館1階 入札執行室

出席委員：岡村委員、藤巻委員、眞山委員、保田委員、柳川委員、渡邊部会長

【平成29年度のモニタリング調査結果について】

（生態系上位性について）

・今後の主な留意点として、哺乳類による猛禽類の繁殖活動への影響に留意するとあるが、これは興味深い視点なので是非調査を検討してほしい。

（生態系典型性陸域・河川域について）

- ・鳥類の出現種について、種数割合ではなく個体数割合で整理してほしい。
- ・植物について、外来種の侵入状況を注視するとあるが、ダムが下流河川への種子供給源とならないよう、特に水位変動に伴う裸地等への分布域拡大に留意していただきたい。また、確認個体数が少なければ調査時に除去するなど、外来種の分布域拡大を未然に防止するような措置を検討してほしい。
- ・植物同様、動物に関しても外来種の侵入に留意して調査を実施してほしい。

（造成地について）

- ・ダム湛水域上流にある造成池が、貯水位の上昇や河川の増水で冠水した場合、流水性の魚類が止水域に取り残される可能性がある。そのような大きな出水が生じた際は、造成池における魚類生息確認調査を検討してほしい。

【次年度以降のモニタリング調査計画（案）について】

（生態系典型性河川域について）

- ・流況変化に伴うダム下流河道の環境変化に留意して調査を実施してほしい。

（生態系水鳥調査について）

- ・湛水後は新たな水面ができることから、これまで確認されていなかった鳥類にも留意して調査を実施してほしい。